

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城県大郷町 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・大郷小学校 第4学年（1組33名、2組32名、合計65名） ・大郷町社会福祉協議会（3名参加）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名（ ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名（ ） ② その他（大郷町社会福祉協議会の職員による車椅子体験活動）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子体験を、健常者と障害者が互いに共生することの大切さを考えるきっかけにしていく活動にする。 ・車椅子体験を通して、パラリンピックで車椅子を使った競技に興味・関心をもたせる。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の利用者についての説明。 <ul style="list-style-type: none"> →社会には、日常生活を送る上で車椅子を利用している人がいること。 →車椅子を利用したスポーツも多く存在すること。(テニス、バスケットボールなど) ・車椅子体験。 <ul style="list-style-type: none"> →車椅子の扱い方や、操作の仕方を教えてもらう。 →実際に車椅子に乗って自走してみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・直線コース、ジグザグコース、段差のあるコース、障害物を置いたコース。 →自走したコースを、補助をしてもらいながら通行してみる。 ・車椅子を利用している人との接し方や、車椅子を使った競技など。 <ul style="list-style-type: none"> →社会には車椅子を利用して生活するだけでなく、スポーツに生かして頑張っている人達がいること。2020年に行われるパラリンピックでも、車椅子を利用した競技があること。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子を利用している人を目にすることはあるものの、車椅子に乗る体験をしたことのある児童はほとんどいない。実際に自分で車椅子に乗る体験をしたことで、興味をもって活動に参加した児童が多く見られた。 ・体験後の児童の感想からは、「車椅子を利用している人達を見かけたら、進んで声を掛けてやるのが大切だ」「車椅子を使った競技を、実際に見てみたい」と感想を書いている児童が多かった。 
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子体験を実施するにあたり、一人でも多くの児童に車椅子を利用した体験ができるようにするために、近隣市町村の社会福祉協議会へ働きかけ、児童数分の車椅子を確保した。  
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年行うことを前提とすると、以下のような点が今後の課題と考えられる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 複数学年が体験教室に参加する際の日程調整について。 ② 児童の学習活動の位置づけ。(どの学習と関連付けるか) ③ 他市町村の学校も、同様の体験教室を実施するとなると、日程調整が必要となる。
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子体験をきっかけに児童の車椅子への興味関心を高め、そこから、宮城県内で活動する車椅子のバスケットチームとの交流する機会を設けていく。車椅子体験から、車椅子バスケットチームとの交流といった学習の流れをつくることで、児童の学習の幅(福祉、体育)を広げられると考える。